

自信教人信 善導大師



福聚海 無量

永観堂法主 玄徳



人生を大きく分けると、「まなぶ時代」と「はたらく時代」となります。

「まなぶ」とは、幼少のころ親のすがたを「見よう見まね」して身に付けていくことで、「まねる」ことがやがて「まねぶ」そして「まなぶ」となります。若いころは「まなぶ時代」。

学んだら今度は、お返しをする必要があります。これはお世話になった方への直接だけではなく、次の世代へという意味もあります。したがって自分のために体を動かしているのではなく、周りの方々を助け、「はたをらく」にしてあげることです。これが文字通り「はたらく時代」です。

「自信」とは学んで自ら信じることであり、「教人信」とは働いて他の人を信じせしむることです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、山口県美祢市在住大橋寿美子様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

不 綺 語

修 習 善 語



永観堂九十世 玄禮



ぼけない為の訓練に、
昨日何を食べたかを、
三食とも順に言ってみると
良いのだそうです。

簡単なことですが、

なかなか思い出せないものです。

何気なしにご飯を食べている。

「いただきます」「ごちそうさま」

と言いながら、

なんの感謝もしないでいる私。

まだまだ呆けていないはずなのに。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県たつの市在住岩本真蔵様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

脚下照顧



脚下照顧

永観堂九十世玄禮



これはよく玄関で見られる語句です。「脚下」は足元のことをいい、「照顧」とはしっかりと見なさいという意味です。自分の履物を脱ぐ際には、振り返って向きを変え、乱れた姿を示さぬように自身の思いを調えるということ。

これは単に履物のことだけではなく、自分をしっかりと見なさいと言うことになります。目標・目的を持つことは必要です。しかし理想や欲望ばかりを求めて現実を把握せずにいるのではないかと、常に自分をしっかりと振り返り、相手の立場に立って考え、時には反省する心を持つことが大切です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮親下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県姫路市在住大村和子様に進呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

攝取不捨

観無量寿経



不攝取

永観堂九十世 玄徳



月影の
いたらぬ里は
なけれども
ながむる人の
心にぞすむ

今

空一面に
雲が覆い
見えぬ月に

不安

いらだち

希望が持てぬと

嘆いてはならない

月在すいま

見えぬとも

念ずるがよい

心にはすむ

慈悲の月影

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県名古屋市中住伊藤照子様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

せん じゅ ねん ぶつ
専修念仏



専修
念仏

永観堂九十世 玄禮



法然上人の晩年、くわしくは建暦二年になつて、ついに病床に伏してしまつた。流罪の疲れに、八十歳という高齢も重なつてのことだ。しかし、法然上人の口から念仏が途切れることなく続いていったという。高弟の信空は、法然上人の容体を案じたため、こう尋ねたという。

「古来の高僧には、遺跡がありますが、しかし法然上人には一寺の建立もございません。ご入滅後は、どこを遺跡とすればよろしいのでしょうか」

弟子たちが、お師匠の遺跡を考えることは、普通の願望であらう。だが、法然上人はこうお答えになつた。

「もしも私の遺跡を一つにしてしまうと、お念仏は広がっては行かない。お念仏を広めることが私の人生をかけての勤めなのだから、あらゆる人が念仏する所が、私の遺跡である」と。

専修念仏こそが、法然上人が生涯かけての勸化であつた。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府京都市在住宮本一郎様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽籤し一名に進呈。

「学ぶことの少ない人は

牛のように老いる」

(法句経)



一生勉強
生涯青春

永観堂九十世玄禮



ことわざに「三日会わざれば刮目^{かつもく}して見よ」と言うけれど、間違えるように成長するのは若いうちだけ。三日前はできたのに今日はもうできない。できないことが増えて、愚痴ばかりが増えていく。

そうじゃありません。できて当たり前と思っていたことが、「ああ、ありがたい」と感じる。一つ一つのことが輝いて見える。できないことが増えて、「ありがたい」が増えてきた。

年を重ねるにしたがつて、人生の味わいが増えていく。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮祝下のご染筆です。前々号の色紙は、大分県臼杵市在住 庄司徳一郎様に進呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

他人の過失を見るなかれ、ただ自分の
したこととしなかったことだけを見よ」

(法句經)



遠離 粗言

永観堂九十世玄禮



ただしい人ばかりの住むお家で花瓶
が割れました。

「だれだ、こんな所に置いたのは。わ
たしは悪くない」

「よく注意しないからだ。当たったお
前が悪いのだ。」

置いた俺は悪いわけないだろう」

悪い人ばかりの住むお家で花瓶が割
れました。

「すみません、わたしの不注意で。わ
たしが悪いのです」

「いえいえ、こんな所に置いたわたし
が悪いのです」

どっちがいいですか？

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県加古川市在住杉本陽一様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

精進願度世（無量寿経）



精進
願度世

永観堂九十世玄禮



かつて

九九が言えた

逆上がりのできた

あの時の感動と喜び

憶えていますか

しかし今は

ただ衰えるばかりと

嘆くなかれ

人生

終着駅に着くまでは

日々成長の一過程

お浄土行きの

切符を握りしめ

車窓に現れる

これまで

見たこともない

さまざまな風景を

感動をもつて

楽しんでいこう

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮現下のご染筆です。前々号の色紙は、山口県宇部市在住 山田信義様に進呈します。
ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

捨無量心



捨無量心

永観堂九世 玄禮



われら 凡夫なれば

善いことしたとて

たかが知れたもの

高慢な心なぞ

捨てておけ 捨てておけ

小さな親切

善意の押し売り

迷惑なこともある

状況を見よ

そつとしておけ

捨てておけ

喧嘩口論

怨恨を残す

こだわりは

捨てるがよい

恨みも辛みも

捨てておけ 捨てておけ

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、北海道深川市在住 木下アサ子様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

修心佛法 (無量寿經)



修心佛法

永観堂九世 玄禮



檀家さんの娘、しかも十代の女性二人が、剃度式を行い、それぞれ戒名を授かりました。

剃度式は、仏道入門の最初の儀式です。頭頂に、お剃刀をあてる作法や、仏法僧に帰依する偈文をお唱えします。

剃度を受けると、ほとけさまの弟子になった証しとして、戒名をいただくのです。この戒名は、自分自身に新たな命を与える名前ですし、自分自身の生き方に迷わないようにしていくための名前でもあります。

若い二人には、これから多くの試験が待ち受けていることでしょう。その時、戒名が支えになってくれるはずです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、奈良県奈良市在住 福井百合様に進呈します。
ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み込み下さい。抽選し一名に進呈。

仁
慈

仁慈
博愛

永観堂九世玄禮



自分の命を認めることさえできない者は、他者の命をみとめることはできません。

昔むかし、悪い師に騙され、百人の指で首飾りを作るために百人の人を殺そうとした男がいました。九十九人まで殺し、百人目、その男の前に現れたのは自分の母親でした。母とはわからずに殺そうとしたところを止めに入ったのは、お釈迦様です。いくら刃物を繰り出そうと当たりません。「ええい 動くな」と怒鳴りました。「動いているのはお前の心だ」とお釈迦さまは静かにお答えになりました。「命あるものを見ず、自分の命からも逃げようと、立ち止まっていけないのはお前なのだ。ようやく殺そうとしていたのが自分の母親であったことに気付いた男は、奪おうとしていたのは指ではなく、自分と同じ大切な命だと気付くことが出来ました。

お釈迦様の弟子になったからといって、許されるはずがありません。街に出ると石をぶつけられる。糞を投げられる。血まみれになりながら、ただ与えられた命を罪を背負って生きたということです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府京都市在住 炭本顕太様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

老少不定



光陰 可惜

永観堂九世玄禮



法然上人は、いつ命が尽きようとも後悔をしないように、終日お念仏とともに生活されました。

亡くなる二日前には、「一枚起請文」を授けられたように、老衰の中で、死の直前まで念仏を広められるという目的を見失わず活力とされました。

老少不定といえます。諸行無常の世の中を、毎日無駄に過ごさず、年齢や健康に関係なく一日一日を、悔いの残らないように精一杯生活したいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長中西玄禮猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県姫路市在住熊野幸男様に進呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。